



愛犬・愛猫のための 防災・減災対策



日本列島に暮らす私たちは、災害に見舞われる危険と常に隣り合っています。いざという時に少しでも被害を減らすための防災・減災対策はできていますか？ 愛犬・愛猫と暮らす人の平常時の準備と災害時の行動、6つのポイントです。

ポイント1 まず被災状況を把握する

千代田区では全域が「地区内残留地区」。避難は最後の手段です。地震が発生してもすぐ避難するのではなく、自宅等にとどまり、まず被災状況を把握してください。窓ガラスが割れ、ワンちゃん、猫ちゃんがパニックになって外へ出て行ってしまう可能性があります。電気・水道・ガス等のライフラインが途絶えているかもしれません。非日常の状況となった自宅でペットと過ごすことを想定してシミュレーションしてみましょう。

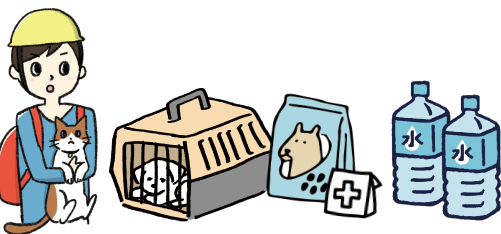
ポイント2 「ペット用防災セット」の用意を

愛犬・愛猫の命と健康を守るため、「ペット用防災セット」を用意しましょう。

- 1【ケージ・クレート・キャリーバッグ】ペットが安全に過ごし、移動することもできます。
- 2【飲み水】ペットボトル入りの水（軟水）3日以上
- 3【ペットフード】ふだん食べているものを3日以上
- 4【食器と水入れ】軽量で割れない素材のものを選びます。
- 5【排泄用品】犬にはペットシートとうんち処理袋とスコップ。猫にはトイレトイレット砂とスコップ。消臭スプレーも重宝します。
- 6【グルーミング用品】ブラシ、くしのほか、ガムテープがあると抜け毛を取るのに便利。
- 7【ベッド・マット・クッション】使いたてにしておいたものがあればペットは安心します。
- 8【おもちゃ】お気に入りのものがあると、ストレス解消になります。猫にはつめとぎも。
- 9【常備薬】基礎疾患があるペットには、薬を忘れずに。

ポイント3 避難時は「同行避難」が原則です

もし火災が発生するなど危険を感じたら、すみやかにペットと「同行避難」しましょう。小型犬や猫はキャリーバッグに入れ、大きな犬にはリードを付けます。ペットは置いて行かないのが原則。あとで連れ出しに戻っても、その時までペットが無事でいてくれるとは限りません。また飼い主が二次被害に巻き込まれる危険があります。



ポイント4 平常時の社会化としつけが大事

避難生活では、見知らぬ場所で大勢の人や未知のペットと過ごさなければなりません。そうした状況におかれても、過度に緊張したり、興奮したりしないよう、愛犬・愛猫を社会化しておきましょう。

犬であれば、基本的なしつけが不可欠です。「おすわり」「ふせ」を教えるれば、落ち着かせることができます。「まで」「おいで」は、犬を危険から守るためにも必要。危ない場所へ行こうとしたときに制止でき、取り残されたときに呼び戻せます。いちばん大事なのは、むだ吠えしないで静かに過ごせること。クレートに入って静かに過ごせるように教えておきましょう。

猫については、キャリーバッグに入って移動できることが必須です。家以外の場所で過ごしても過剰なストレスを感じないよう、環境の変化に馴らしておきましょう。

ポイント5 個体識別が生き別れを防ぐ

災害時に家族とペットが離れ離れになってしまうことは少なくありません。東日本大震災時の内陸部でも、たくさんの猫・犬が揺れに驚き、割れたガラス窓や壊れたドアから飛び出して行方不明になりました。再会できた幸運なケースもありますが、そのまま生き別れとなってしまったケースが少なくありません。運命を分けたのは「個体識別」でした。個体識別とは、ペットの身元を明確にする。こと。人口も「犬口」「猫口」密度も高い大都市で災害が発生した場合、行方不明になるペットが相当数、出ると見られます。生き別れの悲劇を防ぐためにも、愛犬・愛猫の個体識別を明確にしておきましょう。

個体識別の方法としていちばん確実なのはマイクロチップです。マイクロチップとは、獣医師が専用の注射器を使って皮下に埋め込む極小の電子標識器具。リーダー（読み取り機）を近づけると、ID番号が表示され、飼い主の情報がわかる仕組みです。

2022年6月1日から、ブリーダーやペットショップで販売される犬・猫について、マイクロチップの装着が義務化されました。ちよだニャンとなる会で譲渡している保護猫も、マイクロチップが装着されています。家に迎えたら、飼い主情報をご登録ください。

ポイント6 決め手は日常の健康管理

避難生活では、よその犬・猫といっしょに過ごすことになります。健康管理の行き届かない犬・猫がいたら、ウイルスや寄生虫等の「うつる病気」が広がりがねません。犬では狂犬病の予防注射、ワクチン接種、フィラリアの予防を。猫ではワクチンを接種しましょう。犬・猫ともに、寄生虫の駆除が必須であることは言うまでもありません。

去勢・不妊手術を受けていない犬・猫は、よその犬・猫といっしょになったとき、トラブルが起きる可能性があります。不幸な猫・犬を増やさないためにも、かならず去勢・不妊手術を受けさせましょう。

平常時からの愛犬・愛猫の健康管理が災害をのりきる決め手にもなります。